



平成29年5月23日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 長谷川淳一
(コード番号 4047 東証第1部)
問合せ先 人事総務部マネージャー 上原佳浩
(TEL. 03 - 3257 - 0371)


平成29年3月期 決算説明会資料

当社では、本日5月23日、機関投資家・証券アナリスト向けに平成29年3月期 決算説明会を開催いたします。

平成29年3月期決算の概要、今後の業績見通しについて説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

平成29年3月期 決算説明会

 関東電化工業株式会社
平成29年5月23日

1

説明内容

1. H29/3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学 品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学 品事業	フッ素系 製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タンゲストン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、五フッ化ヨウ素、六フッ化リン酸リチウム、ホウフッ化リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料、鉄酸化物等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

関東電化工業株式会社

3

関東電化グループ(連結子会社)

(単位:百万円)

	資本金	出資 比率%	H29/3末 個別売上高	対前期 増減	主要な事業内容
関電興産(株)	10	100.0	5,894	△440	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	5,310	2,004	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業(株)	27	96.8	939	71	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA (株)	3 億ウォン	90.0	8,319	△745	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份 有限公司	7 百万NTドル	100.0	4,494	108	フッ素系製品の販売

合計	24,959	999
----	--------	-----

関東電化工業株式会社

4

連結・個別損益の概要

(単位:億円)

連結決算					個別決算			
	H28/3 (倍率)	H29/3 (倍率)	増減	増減率 (%)	H28/3	H29/3	増減	増減率 (%)
売上高	430 (1.10)	460 (1.13)	30	7.1	390	408	18	4.7
営業利益	86 (1.06)	93 (1.11)	7	8.2	81	84	2	3.3
経常利益	87 (1.08)	94 (1.09)	6	7.4	81	86	4	5.6
親会社株主に 帰属する 当期純利益	80 (1.04)	66 (1.08)	△13	△17.1	77	62	△15	△19.6

関東電化工業株式会社

5

連結決算のポイント

(単位:億円)

	H28/3	H29/3	差額
売上高	430	460	30
営業利益	86	93	7
純利益※	80	66	△13

※親会社株主に帰属する当期純利益

(1) 売上高増加 (+30億円)

- ・基礎化学品事業は、販売数量の減少と販売価格低下により減収(△6億円)
- ・精密化学品事業は、販売数量の増加と価格修正効果により増収(+28億円)
- ・鉄系事業(+2億円)、商事事業(前期並)、設備事業(+5億円)

(2) 営業利益増加 (+7億円)

- ・基礎化学品事業(前期並)、精密化学品事業(+3億円)
- ・鉄系事業(+1億円)、商事事業(△0.2億円)、設備事業(+3億円)

関東電化工業株式会社

6

基礎化学品事業部門

(単位:億円)

	H28/3	H29/3	差額
売上高	65	59	△6
営業利益	1.8	1.8	△0

【売上高】

- ・か性ソーダ…………… 販売価格の低下により減収。
- ・塩酸……………販売価格の低下により減収。
- ・トリクロールエチレン…販売数量の減少と販売価格の低下により減収。
- ・パークロールエチレン…販売数量の減少と販売価格の低下により減収。

【営業損益】

- ・原燃料費用の低下とコストダウンにより前期並の営業利益を維持。

関東電化工業株式会社

7

精密化学品事業部門

(単位:億円)

	H28/3	H29/3	差額
売上高	301	329	28
営業利益	78	82	3

【売上高】

- ・三フッ化窒素……………販売数量の減少と販売価格の低下により減収。
- ・六フッ化タングステン…販売数量の増加により増収。
- ・六フッ化リン酸リチウム…販売数量の増加と価格修正効果により増収。

【営業損益】

- ・固定費は増加したが、増収効果により増益。

関東電化工業株式会社

8

鉄系・商事・設備事業部門

(単位:億円)

	H28/3	H29/3	差額
売上高	63	71	8
営業利益	7	11	4

【鉄系事業】

キャリアーおよび鉄酸化物の販売数量増加により、増収増益。

【商事事業】

連結子会社である関電興産の化学工業薬品販売減少により、減収減益。

【設備事業】

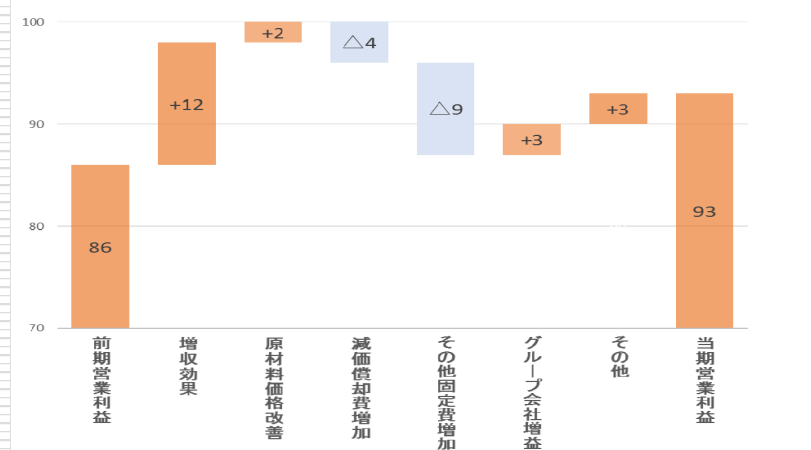
連結子会社である上備製作所の請負工事増加により、増収増益。

関東電化工業株式会社

9

連結営業利益差異分析(H28年3月期 対 H29年3月期)

(単位:億円)

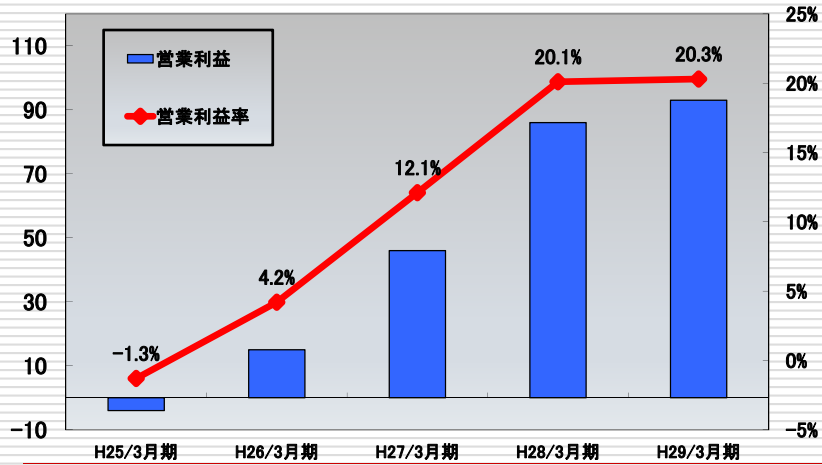


関東電化工業株式会社

10

営業利益と営業利益率の推移(連結)

(億円)

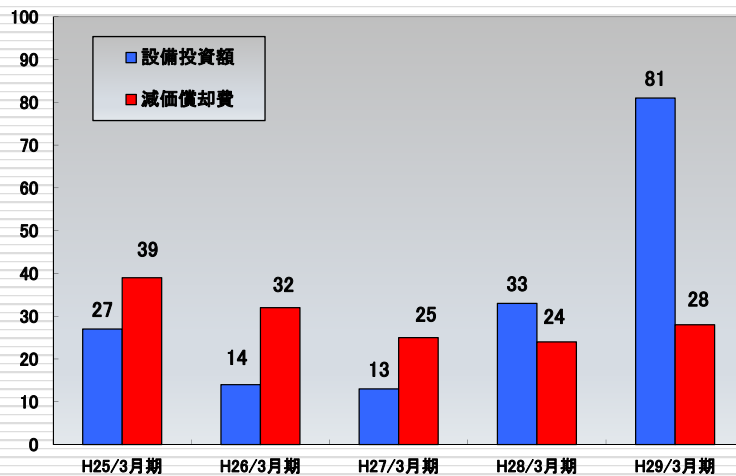


関東電化工業株式会社

11

設備投資・減価償却費の推移(連結)

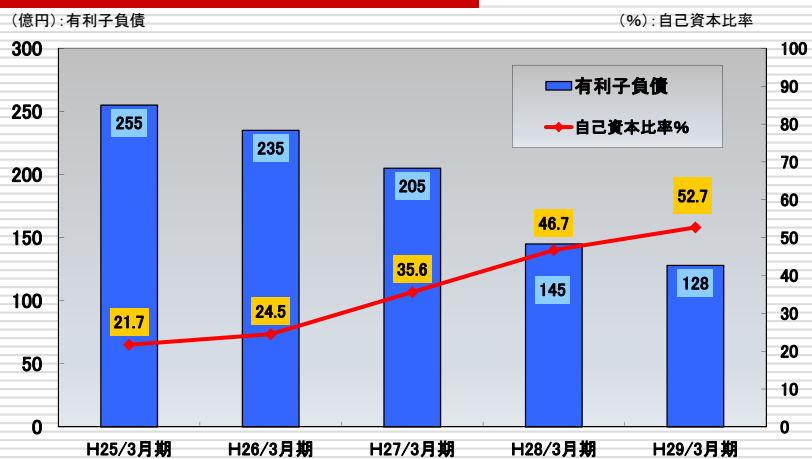
(億円)



関東電化工業株式会社

12

有利子負債・自己資本比率の推移(連結)



説明内容

1. H29/3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

セグメント別業績予想(連結)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	H29/3	H30/3	差額	H29/3	H30/3	差額
基礎	59	61	1	1	1	△0
精密	329	385	55	82	65	△17
その他※	71	74	2	9	4	△5
合計	460	520	59	93	70	△23

設備投資	81	69	△12
減価償却費	28	48	19
研究開発費	12	12	△0

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

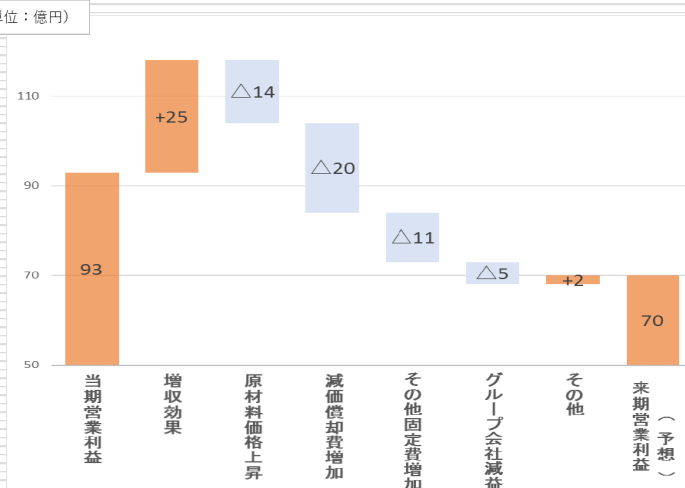
※為替レート見込:110円/\$

関東電化工業株式会社

15

連結営業利益差異分析(H29年3月期 対 H30年3月期)

(単位:億円)



関東電化工業株式会社

16

セグメント別業績予想(連結) 上期下期比較

(単位:億円)

	H30/3売上高			H30/3営業利益		
	上期見込	下期見込	差額	上期見込	下期見込	差額
基礎	29	32	3	△1	2	3
精密	176	209	33	25	40	15
その他※	40	34	△6	3	1	△2
合計	245	275	30	27	43	16

設備投資	36	32	△4	※その他は、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。
減価償却費	22	26	4	
研究開発費	6	6	0	

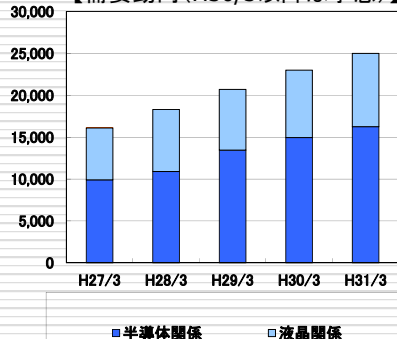
関東電化工業株式会社

17

—主な製品の見通し— 三フッ化窒素(NF3)

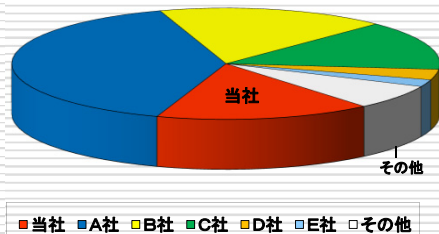
- 半導体・液晶製造プラズマCVD装置のチャンパークリーニングガス。
- 製造能力 3,500t/年

【需要動向(H30/3以降は予想)】



【現在のシェア予想】

当社シェアは約2割



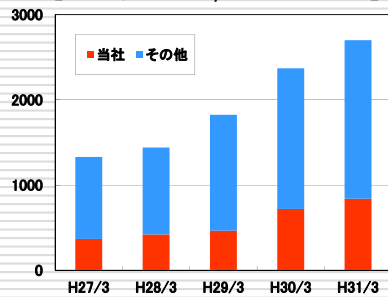
関東電化工業株式会社

18

ー主な製品の見通しー六フツ化タンゲステン(WF6)

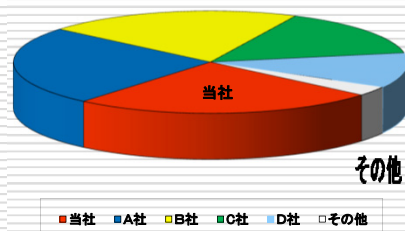
- 半導体用配線材料ガス。
- 3D-NAND・微細化の進展により需要が増加
- 製造能力720t/年 ⇒ 840t/年(H29年8月)

【販売数量(H30/3以降は予想)】



【現在のシェア予想】

当社シェアは約3割



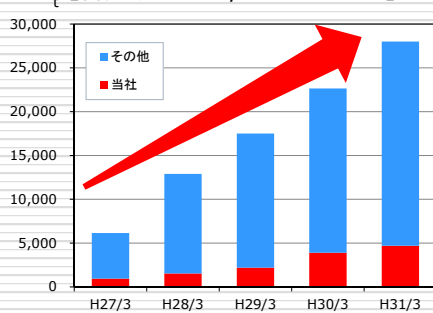
関東電化工業株式会社

19

ー主な製品の見通しー六フツ化リン酸リチウム(LiPF₆)

- リチウムイオン二次電池の材料である電解質。
- EV等の車載向け需要が拡大。
- 製造能力は5,400t/年。

【需要動向(H30/3以降は予想)】

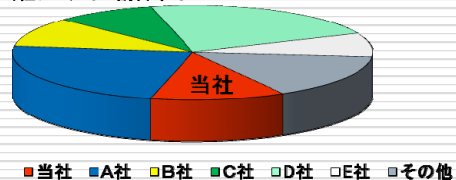


車載用電池

電池特性、安全性等の要求が強い
▶ 高品質のLiPF₆が必須となる

【現在のシェア予想】

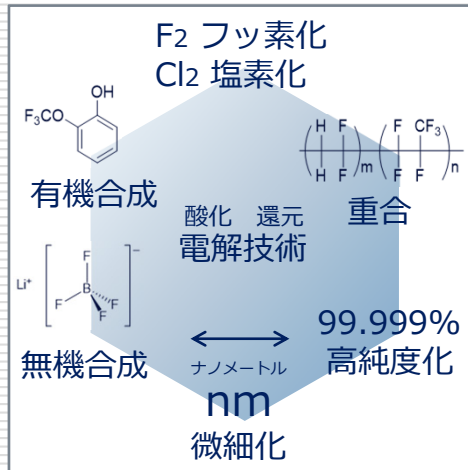
当社シェアは1割台半ば



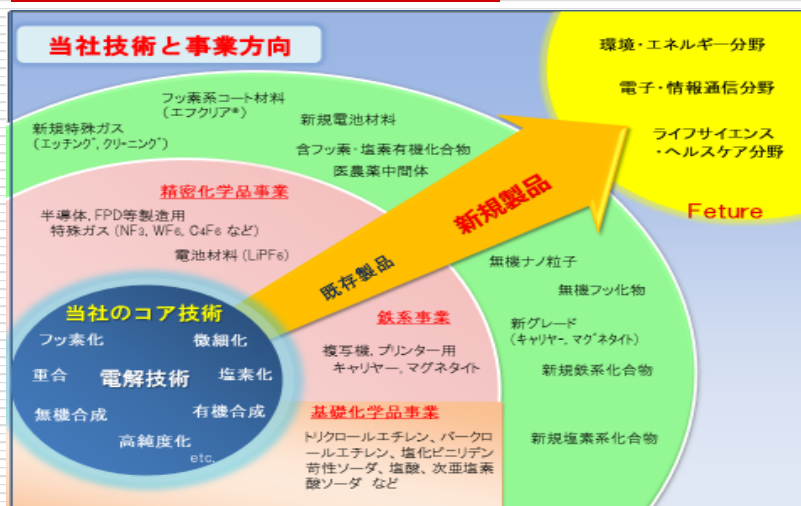
関東電化工業株式会社

20

当社のコア技術



創造的開発型企业へ



注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。